

研究結果報告書

阿倍仲麻呂と安南都護府

所属： ベトナム国家大学ハノイ校・人文社会科学大学

役職： 専任講師

氏名： ファム・レ・フイ (Mr. Pham Le Huy)

阿倍仲麻呂は、小倉百人一首の「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも」の歌で多くの日本人に親しまれた奈良時代の歌人である。その一方、日本・ベトナム交流史上で特筆すべき人物でもある。

阿倍仲麻呂は上元年間（760～761）、ベトナムの北部・北中部に設置された唐朝の統治機関・安南都護府の長官（鎮南都護、後に安南都護に改称）に任命された。彼の任命を「遙領」とみて、その安南赴任の虚実に疑問をかける意見もあった。しかし、杉本直治郎氏が1939年に『阿倍仲麻呂伝研究』を発表して以来、阿倍仲麻呂が実際に安南に赴任し、その後任である張伯儀と交替した大暦2年（767）まで合わせて六年間ぐらい安南の地で活躍したという同氏の説が現在では最も支持を得ている。

唐代には確かに遙領制度があったものの、唐朝の法制をみる限りではその制度の適用は宗室・親王のみに限定されていた（『新唐書』百官志）。さらに、阿倍仲麻呂が安南都護に在任中、唐の中央政府から安南都護に対して現地に関わる様々な指示が出された。たとえば、永泰2年（766）、「安南節度使左散騎常侍韓衡」（韓衡は阿倍仲麻呂の中国名）に対して、徳化州や龍武州など新設の羈縻州で異民族に慰労を行うようにという詔が下された（『冊府元龜』巻170・977、『安南志略』巻8）。本研究は、これらの史料に着目して阿倍仲麻呂の安南赴任の実態及び彼が当時活躍した安南都護府の城郭を中心に調査・研究を進めることで杉本説を補強した。

阿倍仲麻呂の安南への赴任経路に関しては、直接触れる史料がほとんど残っていないため、解明するのが不可能だと考えられていた。その研究の限界を突破するために、本研究は南中国の各都市での現地調査を行い、それを踏まえた上で唐の内地と安南都護府を結ぶ各交通路線を再検討し、阿倍仲麻呂も含めた唐の安南都護の赴任の実態を復原することを試みた。

次に阿倍仲麻呂は安南で具体的にどの場所のどのような環境で仕事をしたのか考察をした。ベトナムを支配するために唐帝国はベトナムの首都ハノイ辺りの「宋平県」に安南都護府を建設し、王朝が存続している三百年の間、数回にわたってその支配拠点を堅固化する工事を行った。近年、ベトナムの新国会議事堂の建設予定地（タンロン遺跡）における発掘調査が進むことにより、9世紀後半の安南都護高駢の大羅城がここにあったことが判明した。ところが、それ以前、825年に安南都護李元喜が都護府を移築したという出来事が文献資料に記録されているため、阿倍仲麻呂も含めた825以前の安南都護の任所がどこにあったのかが、未解明であった。また、従来の研究が都護府の所在地の比定という一点に偏っているため、安南都護府全体の景観やその城郭に関する研究が不十分であった。そこで、阿倍仲麻呂の任所を明らかにするために、本研究は中国での調査を行い、楊州をはじめ、唐宋時代の城郭と比較しながら、歴代の安南都護府の城郭を検討し、その特徴を指摘した。またタンロン遺跡出土の文字磚（文字が書かれたレンガ）という文字資料群を整理・調査し、その過程で「元和四年」（809年）の文字が書かれたレンガを発見した。この発見により825年以前の安南都護府がタンロン遺跡

にあったことが裏付けられた。さらに文献資料をもとに李元喜が移築した後、やがて都護府が再び本来の場所に戻されたことを立証した。その結果、阿倍仲麻呂時代の安南都護府がタンロン遺跡にあったという事実を確認した。さらに、2013年末に発見された遺構を分析した上で、安南都護府の城郭の北限及び南限を確定し、今後の発掘調査に手がかりを提示した。

今回、住友財団のご支援で従来実施不可能であった中国での調査やタンロン遺跡の遺物整理・調査を行い、以上の研究成果を収めることができた。この場をお借りして、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「大羅期の研究 現状の認識と将来の課題」(タンロン文化遺産保存センター・東京文化財研究所共催ワークショップ「タンロン遺跡研究の新しい成果」、ハノイ、2013年9月12日。後に下記の東京文化財研究所の報告書に所収。)

「安南都護府城郭の研究——阿倍仲麻呂の任所をさぐって」(国際学術研究会「交響する古代ⅠⅤ：列島の文明化と日本古代学」、明治大学、2013年10月31日～11月2日)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「大羅期の研究 現状の認識と将来の課題」(ユネスコ日本信託基金事業「タンロン・ハノイ文化遺産群の保存」成果報告書)(東京文化財研究所、2013年)(日・越・英語三ヶ国語)

「阿倍仲麻呂の安南赴任について」(ファム・ティ・トゥ・ザン編『越日交流史』、世界出版社、2014年)(日・越二ヶ国語出版)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)